

3. 経営方針

新学習指導要領の趣旨である生きる力の育成に向けて、教育課程を工夫する。生徒の課題である（自主性、主体性、コミュニケーション能力、自尊感情）を育成する手段として本校の特色である「ふるさと」との関わりを踏まえ、学校の活力を生み出し、地域に力を与える教育活動の充実に努める。学校教育目標「学びを深め、志を持って挑戦する生徒」を達成するために、組織的な学校運営を行い、温度差のない学年・学級経営に務め、教職員の意識改革を進めると共に、学校力の向上を目指す。そこで、本校の生徒の実態を踏まえて、平成30年度は次の5点（①教育観の共有②協育③共育④響育⑤郷育）を学校経営の基本方針とする。そして、生徒が、保護者が、教職員が「中伊豆中学校で学んでよかった」と思える学校づくりに努めていきたい。

- | | |
|----------|--|
| 1 教育観の共有 | 一人一人の意欲を引き出し、確かな学力につなげる指導観・生徒観・授業観の共有と実践 |
| 2 協育 | 全教職員が、チーム中伊豆中の一員として生徒の自己実現（夢作り）に努める |
| 3 共育 | 生徒、保護者、地域に信頼され、愛される中伊豆中学校づくりを進める |
| 4 響育 | こ小中地域連携、学校行事、道徳科をつなげ、全教育活動で自尊感情と主体性を育てる |
| 5 郷育 | 教材開発や人材活用を工夫し学校の活力を生み出しふるさとに誇りを持つ教育活動推進 |

4. 研修全体構想

学校教育目標

学びを深め 志を持って 挑戦する生徒

研修テーマ「自ら学習に向かい 学び合いを通して 力が付く授業づくり」

〈仮説〉生徒に付けたい力を明確にし、学びたいと思う学習課題の提示、解決の見通しを持つための学習形態を設定していけば、仲間と関わり合う中で、伝え合う楽しさや分かる喜びを味わい、知識を関連付けながら深く学ぶことができるだろう。

子どもの姿のイメージ

①自ら学習に向かう子	②学び合いをする子	③力が付く子
<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心を持って主体的に家庭学習に取り組む工夫（問いを生む授業） ・課題発見力を鍛え、追求課題を持ち、学習活動をつなげる ・自分で判断し、見通しを立てる力の育成（学習の基盤は学年経営） 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の意見を聞き、自分の考えと比較して、関わり合い、学びを広げる ・他との関わりや表現する場の設定 ・道徳の授業改善を通して、多面的多角的に考える指導と評価の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を自分の言葉で表現する ・学びを実生活で転用していく力を伸ばす ・学びの実感を持つ（学力向上） ・問いを新たに持つ（オープンエンドの授業の工夫） ・自己の成長を把握する評価の工夫

(1)「分かる」授業づくり ～焦点化・視覚化・共有化～ 新学習指導要領の理解・実践

- ① 付けたい力の明確化 ② 学習課題の工夫 ③ 多様な学習形態
 ④ 初任研、若手研、中堅研、地域支援課訪問を活用した授業改善による指導力向上

(2)「特別の教科 道徳」に向けた体制づくりと授業改善

- (3)不登校未然防止研修 ①生徒理解を中心としたチーム対応の確立 ②見取りシートの活用